

国際理解教育/開発教育 学習指導案

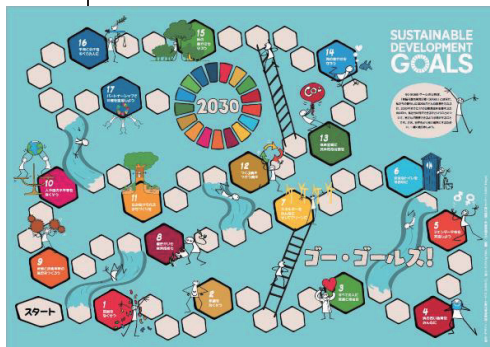
【実践者】

授業者氏名	仲田 志穂	学校名	宇都宮市立岡本北小学校
教科・領域	総合・社会・国語・外国語	対象学年（人数）	4年生（58名）
実践期間（時数）	2020年7月～10月（30時間）		

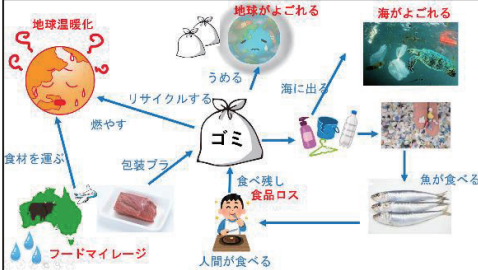
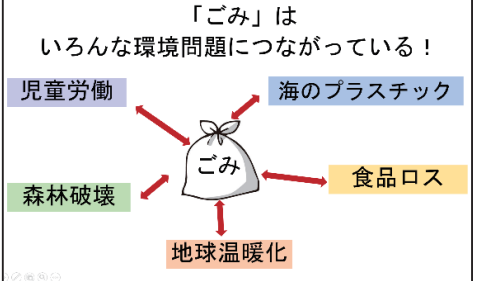
【実施概要】

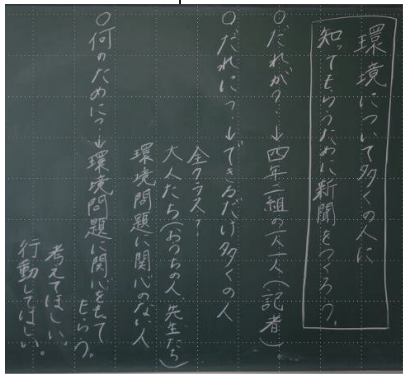
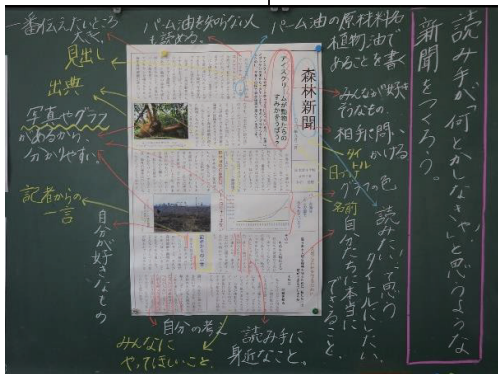
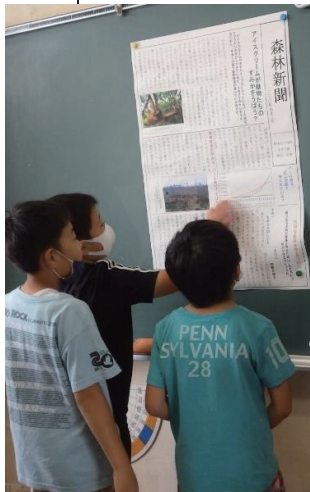
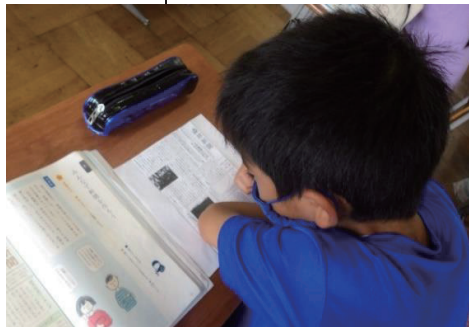
1. 単元名：われら環境調査隊					
2. 実践する教科・領域 総合的な学習の時間 16 時間 社会 7 時間 国語 6 時間 外国語 1 時間	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標 身近な環境問題やその背景，家庭や地域での取り組みなどを調べる活動を通して，多様な環境問題は自分たちの生活と深いかわりがあることを理解し，環境問題を自分事として捉えて課題解決に取り組むとともに，自らの生活や行動に生かすことができるようにする。（総合的な学習の時間を中心とする目標）					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	多様な環境問題は自分たちの生活とも深いかわりがあることや，環境保全のために様々な取り組みが行われており，そのために活動したり努力したりしている人々がいることを理解している。			
	②思考力、判断力、表現力等	身近な環境問題やエコ活動に関心をもち，環境問題を自分の問題として捉え，必要な情報を集めたり選んだりして課題解決に取り組むとともに，調べたことを分かりやすくまとめたり，相手に関心をもってもらえるように工夫して伝えたりしている。			
	③学びに向かう力，人間性等	友達と協力して課題解決や実践に取り組むとともに，環境保全のために自分でできることに取り組むことを通して，自分と身近な環境との関わりを見直そうとしている。			
6. 単元観	【単元設定の理由と意義】 現代社会において，様々な環境問題や「エコ」という言葉は，児童にとっても身近な話題である。また 4 年生の社会科の学習においても，水やごみを題材として，自分たちの生活と環境の関わりについて学ぶ。しかし実生活での児童は，環境問題を自分の生活と関連付けて考えたり，環境問題解決のためという実感を伴ってエコ活動に取り組んだりしているとは言い難い。そこで，身近な環境問題やその背景，家庭や地域での取り組みなどを調べる活動を行うことで，身近な環境への関心を高め，環境を守るために自分の生活を見つめ直すとともに，環境に配慮した生活を目指そうとする意欲や実践的態度を養いたい。 【児童観】 本学級の児童は，様々なことに興味・関心をもって積極的に取り組むことができ，一人一人がとても個性豊かである。一方で，興味・関心を持続させ，根気強く学ぶ姿勢が乏しい児童もいる。社会科の「わたしたちのくらしと水」の学習では，世界には家族のために水汲みに行くことで，学校に通えない子どもたちがいることを知った。また，自分たちの毎日の食事は，海外の食材に支えられていることを知り，バーチャルウォーターについても学んでいる。「今				

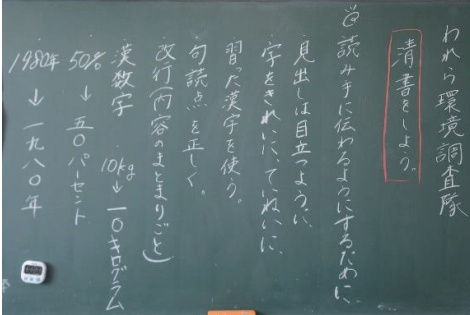
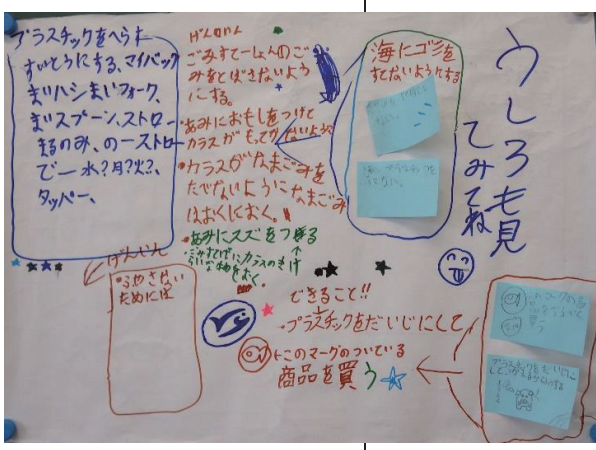
	日の給食にはどのくらいの水が使われているのだろう」と疑問をもつ児童もおり、自分たちの生活と世界とのつながりを、少しずつ感じることができるようになってきている。本単元においても、児童にとって身近なアイスクリームやスナック菓子等の食品、洋服や文房具等の日用品等を切り口に、それらのものが日本を含めた世界の環境問題につながっていることに気付かせる等、児童が環境問題を身近に感じ、自分事として捉え、実生活に生かしていけるような授業づくりに努めたい。 【指導観】 総合的な学習の時間「われら環境調査隊」を軸に、社会科「そのごみはどこへいくの?」、国語科「みんなで新聞をつくろう」、外国語活動「What do you want?」の単元との関連を図り、教科横断的に学習を進めていく。社会科では、ごみの分別や、ごみ処理の仕方とその工夫について学び、ごみを減らすために自分にできることを考え、実践する。総合的な学習の時間では、社会科の学習を発展させ、自分たちが毎日出しているごみと様々な環境問題との関連について考える。本単元ではごみと関連する環境問題として、海洋汚染、食品ロス、地球温暖化、森林破壊、児童労働を取り上げる。それらの中から自分が一番解決したい問題を選んで課題を立て、調べ学習を通して学びを深めていく。その後、国語科において「読み手に関心をもってもらえるような新聞を作る」ことを目的に、調べたことや自分たちにできることを新聞にまとめ、家族や友達、他学年の児童に発信する。相手が環境問題を自分事として捉えてくれるような新聞を意識させることで、相手に工夫して伝える力を育てていきたい。また、外国語活動では「フードマイレージが一番高いメニューを知るために模擬買い物をを行う」という言語活動を設定し、食と環境問題とのつながりを知る。単元の終末では、「4年2組地球サミット」を開催する。児童一人一人の学びや実践を振り返ったり、環境問題を解決するために、できる限り多くの人にとって持続可能なエコ活動について考えさせることで、自分たちの意志で、学びを生活に生かしていこうとする態度を育てたい。自分たちのこれまでの活動とSDGsとのつながりを捉えさせることで、SDGsが児童一人一人にとって、自分事になるような展開の工夫をしたい。		
7. 単元計画 (全30時間)			
時	ねらい	学習活動	資料など
1	身近なものが環境問題につながっていることに気付く。 (総合的な学習の時間)	・身近にある、省エネ家電を知る。 ※プログラミング教育との関連を図る。 ・知っている環境問題を出し合う。 ・自分たちの身近な生活と、環境問題とのつながりを考える。 ・100年後の天気予報を見て、感想を伝え合う。	・環境省「2100年未来の天気予報 https://ondankatai.saku.env.go.jp/coolchoice/2100weather/
2	SDGsについて知る。 (総合的な学習の時間)	・SDGsに関する動画を視聴する。 ・SDGsすごろくをする。 ・興味のあるSDGsを伝え合う。	・ゴー・ゴールズすごろくでSDGsを学ぼう (国際連合広報センター) ・動画 “World’s Largest Lesson Part1 (Japanesewith subtitles)” https://www.youtube.com/watch?v=H0yxJzzIFo8 ・動画 “What’s SDGs?” https://www.youtube.com/watch?v=QyDqENGI6g0



3	宇都宮市のごみの量や収集の様子について話し合い、学習問題を立てる。 (社会)	・ごみにはどのようなものがあるか考える。 ・宇都宮市のごみの量と人口のグラフ、分別収集の様子から、気付いたことや疑問点を話し合い、学習問題をつくる。	市の焼却ごみの量と人口の うづりかわり (宇都宮市ごみ減量課調べ)
4	宇都宮市のごみの処理の仕方について調べ、まとめる。 (社会)	・学校や地域のごみステーションの写真から、気付いたことを出し合う。 ・「ごみの分別をするのはなぜか」、「ごみの種類によって集める曜日が違うのはなぜか」について考える。	・学校や地域のごみステーションの写真 ・家庭系ごみの出し方(5種13分別)(宇都宮市公式サイト)
5 ～ 7	周りの市や町と協力して計画的にごみ処理をしていることについてまとめ、資源の節約や有効利用の大切さについて考える。 (社会)	① 燃えるごみのゆくえ ・埋立地の問題について考える。 ・燃えるごみの再利用について知る。 ② びん・かん・ペットボトルのゆくえ ・どのように処理されているのかを知る。 ③ 紙・布・プラスチックのゆくえ ・どのように処理されているのかを知る。 ・機械と人の両方で処理をしている理由について考える。 ・再利用について知る。	・社会科補助教材「わたしたちのくらしとごみ」(宇都宮市)
	エコパーク板戸 平成30年で、まんばいに！	びん・かん・ペットボトルは どのようなものにリサイクルされているだろう。 飲料びん・ジャムのびんなど 飲料かん・かんづめの缶など くつした・じょうぎ・ぬいぐるみ・洋服・カーペット・カーテンなど	紙・布・プラスチックは どのようなものにリサイクルされているだろう。 新聞紙・印刷紙など 紙づつダンボールなど 紙製ダンボール紙など トイレットペーパー・ティッシュペーパーなど ぞうきん・くんで古着として海外へなど ペンギン・紙製車の車止め・ごみ袋など
8	ごみを減らす取り組みについて知り、人々がごみの減量に協力して取り組んでいることが分かる。 (社会)	・3Rについて知る。 ・「リサイクルステーション」や「もったいない残しま10！運動」等、宇都宮市の取組について関心のあるものをノートにまとめる。	・社会科補助教材「わたしたちのくらしとごみ」(宇都宮市)
9	自分にできるエコ活動①に取り組む。 (社会)	・夏休み期間を利用し、自分にできるエコ活動に取り組み、エコポイントをためる。 ・夏休み明けに、お互いのエコ活動を伝え合う。	

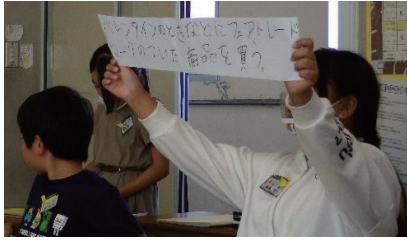
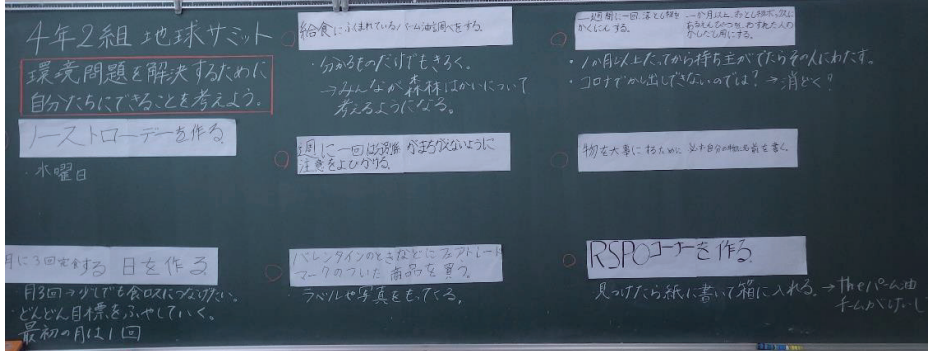
1 0	ごみが様々な環境問題につながっていることに気付く。 (総合)	- 環境問題に関連する写真や図を矢印や言葉で結びつける活動を通して、海洋汚染、フードロス、地球温暖化、森林破壊、児童労働との関わりを知る。 - 自分が一番「何とかしたい!」と思った環境問題を選び、これから更に詳しく調べたいことについてまとめる。	 
1 1	買い物ゲームを通して、フードマイレージが一番高いメニューを予想する。 (外国語活動)	- 模擬買い物をするために必要な語彙や表現を復習する。 What do you want? / I want～. How many? / ～,please. - 模擬買い物をして、下記のメニューのうち、一番フードマイレージが高いメニューを予想する。 (シーフードトマトスパゲッティ、チキンカレー、ミックスフライ定食、ハンバーグ定食、五目ラーメン、ねぎとろ丼、焼きそば定食、けんちん汁とごはん)	・フードマイレージどこからくるの? 私たちの食べ物 (開発教育協会)   フードマイレージが一番高いメニューはどれ?  
1 2	課題を設定する。 (総合)	- ごみと環境問題とのつながりを整理する。 - 環境問題について調べたことや、自分たちにできることを新聞にまとめ、家族や友達、他学年の児童へ発信するというゴールを知る。 - 自分が一番「何とかしたい!」と思った環境問題について、くわしく調べたいことを決め、調べ学習の計画を立てる。	

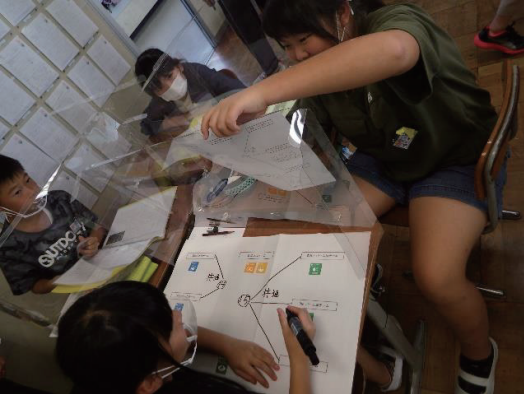
13 ～ 17	調べ学習をする。 (総合)	・書籍、インターネット、アンケート調査等を通して、自分が立てた課題を追究し、ワークシートにまとめる。 	・地球教室(朝日新聞環境教育プロジェクト) ・市立図書館や校内図書館の書籍 ・mundi(2015年8月号)「森から世界を変える」 ・mundi(2016年1月号)「食卓から世界を旅する」 ・mundi(2019年8月号)「地球の未来のために」 ・mundi(2018年5月号)「廃棄物管理“ごみ”に挑む」
18 ～ 19	読み手に分かりやすく、興味をもって読んでもらう新聞の工夫について考え、下書きをする。 (国語)	・読み手に分かりやすく、興味をもって読んでもらう工夫について考える。(見出し、写真、文章の構成を工夫する等) ・これまで調べ学習で集めてきた資料をもとに、わりつけを考え、下書きをする。  	
20	友達とアドバイスをし合いながら、読み手が「自分事」として捉えてくれるような新聞の書き方について考える。 (国語)	・効果的な見出し、写真、文の構成について、みんなで考える。 ・それぞれの課題(海のプラスチック、食品ロス、地球温暖化、森林破壊、児童労働)ごとに分かれて、読み手が「自分事」として捉えてくれるような新聞になるように、アドバイスをし合う。 ・友達の新聞のよかったところを伝え合う。   	

21 ～ 23	アドバイスをもとに、下書き・清書を仕上げる。 (国語)	- アドバイスをもとに、下書きを仕上げる。 - 下書きをもとに清書をする。 - 違うチームの人たちに、新聞を紹介する。	 
24 ～ 25	調べたことや、自分にできることを家族や友達、全校児童に発信する。 ※授業参観で保護者へ発信する。 (総合)	- 作成した新聞をもとに、これまで調べてきた環境問題や、自分たちにできることを家族や友達に伝える。 - 完成した新聞は掲示し、他学年の児童にも見てもらえるようにする。	
26	自分にできるエコ活動②に取り組む。 (総合)	これまでの学びをふまえ、自分にできるエコ活動を考えて実践し、記録しておく。	
27 ～ 28	「4年2組地球サミット」の準備をする。 (総合)	- 地球サミットについて知る。 - 各チームでこれまれの学びや実践を振り返り、学級のみんなが取り組むことができるエコ活動を考える。	 
	 		
29 ～ 30 10/2 本時	「4年2組地球サミット」を開く。 (総合)	4年2組地球サミットを行う。 - それぞれのチームの提案と、SDGsとの関連について考える。 - 本単元の学習を振り返る。	

8. 本時の展開 (概略)

本時のねらい：環境問題を自分事として捉えて自分たちにできることを考え、自分なりの意見を述べるとともに、これからの生活に生かしていこうとする。(学びに向かう力、人間性等)

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点	教材
導入 (5分)	1 地球サミットについて知る。 環境問題の解決のために、自分たちにできることを考えよう。 地球サミットとは？ 各国の代表者が集まる。環境問題を解決するための会議 	・これまでの学習を振り返ったり、実際の地球サミットの写真を見せたりすることで、意欲付けを図る。	パワーポイント
展開 (40分)	2 4年2組地球サミットを行う。 ① 各チーム(海のプラスチック、食品ロス、地球温暖化、森林破壊、児童労働)ごとに、問題の解決に向けての提案を発表する。 ② 各提案について、質問や意見を述べる。 ③ 提案をよりよいものにし、できる限り全員が実現可能な内容になるように話し合う。 (予想される児童の反応) ・食品ロスチームの提案で、食べ残しをしてしまう理由として、時間がないから、嫌いな物だから、おなかいっぱいになってしまうからという話がありました。「時間がないから」という理由を解決するために、給食の準備時間の目標を決めて、できるだけ食べる時間を長くとれるようにするのはどうでしょうか。 ④ 話し合いをまとめる。	・提案を述べるときには理由(背景にある環境問題)についても伝えるように促すことで、エコ活動の意味付けを図る。 ・誰もが無理なく続けられる取り組みを全員で話し合う場を設定することで、具体的な実践につなげられるようにする。  	ワークシート1

(35分)	3 それぞれのチームの提案とSDGsとの関連について考える。(個人→グループ→全体) ① 各チームの提案は、どのSDGsの目標とつながるでしょうか。 (予想される児童の反応) ・海のプラスチック (ゴール 6, 12, 14, 17) ・食品ロス (ゴール 2, 10, 12) ・地球温暖化 (ゴール 7, 11, 12, 13, 14) ・森林破壊 (ゴール 12, 15, 17) ・児童労働 (ゴール 1, 2, 4, 5, 8, 10, 12)   ② これらのSDGsと関連づけたのはなぜですか。(個人→グループ→全体) (予想される児童の反応) ・海のプラスチックチームの提案は、ゴール 14, 17 とつながっている。海はつながっているから、世界中のみんなで協力しないと解決できないから。 ・食品ロスチームの提案は、ゴール 2, 4, 12 とつながっている。世界には日本のように食料をたくさん捨てている国もあれば、食料が足りなくて困っている国もあるから。みんなが食べ残しをしない工夫をすれば、食品ロスもなくなると思うから。	・SDGs との関連について考える前に、SDGs の内容について復習をすることで、全ての項目を理解した上で、活動に取り組むことができるようにする。 ・SDGs お助けシートを用いて、難しい言葉の理解を促す。 ・SDGs と各チームの提案とを関連させることで、SDGs を自分事として捉えらえるようにすると共に、自分たちが考えた環境問題解決のための取り組みと、世界で解決しなければならない問題はつながっていることに気付かせる。 ・これまでの学びや、各チームの提案がSDGsにつながっていたことに気付かせることで、実感を伴わせながら、SDGsを理解できるようにする。  ・一つのチームの提案には、いくつかのSDGsが関連していることに気付かせ、一つのチームの提案に取り組むことが、様々な問題の解決にもつながることを理解できるようにする。 ・児童の発表に合わせて、黒板の各チームの提案が書かれているところの近くに、関連するSDGsのロゴを貼り、視覚的な理解を促す。	ワークシート 2 SDGs お助けシート SDGs のロゴ
--------------	---	---	--

	・地球温暖化チームの提案は、ゴール 7, 13, 15 とつながっている。地球温暖化を防ぐために、クリーンなエネルギーについて考えていかなければならないし、地球温暖化が進んで異常気象が起きると、森林火災等にもつながってしまうから。 ・森林破壊チームの提案は、12, 15 につながっている。私たちが毎日使っている文房具や家具、紙などはほかの国の木を使ってできているから、それらのものを大切に、森林を大切にしていかなければならないと思うから。 ・児童労働チームの提案は、1, 4, 5 につながっている。お金がないと子どもも働かなければならなくて、教育を受けられなくなってしまうから。世界では女の子の方が教育を受けられていないから。		ワークシート 3
--	---	--	----------



まとめ (10分)	4 本単元の学習を振り返る。 ○今日の話し合いや、これまでの学習で学んだことや感じたこと、これからの生活に生かしていきたいことを書いて、伝え合いましょう。 (予想される児童の反応) ・今日の話し合いで、環境問題について自分たちができることを、みんなで考えることができてよかった。自分にできることをやっていきたい。 ・給食の残食を減らすために、みんなで協力してがんばりたい。 ・ごみという一つの問題が、色々な環境問題につながっていることが分かった。 ・一つの問題を解決することが、他の問題を解決することにもつながることが分かった。 など	・個人で振り返る時間と、お互いに伝え合う時間を十分にとることで、学びを自分たちの生活に生かしていけるようにする。	
--------------	---	--	--

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

【おおむね満足できる状況】

環境問題を自分事として捉えて自分たちにできることを考え、自分なりの意見を述べるとともに、これからの生活に生かしていこうとしている。

【十分満足できる状況】

環境問題を自分事として捉えて自分たちにできることを考え、各チームの提案をよりよくしていくために積極的に意見を述べるとともに、これからの生活に生かしていこうとしている。

【おおむね満足できる状況に達していない児童生徒への手立て】

近くの人との話し合いの時間を設けて自分なりの意見をもてるようにしたり、発言の意図を補ったりしながら、話し合いに参加できるようにする。
(行動観察, ワークシート)

10. 学習方法および外部との連携

- ・話し合いの隊形(コの字型)で、学習を進める。
- ・個々が設定した自分が一番解決したい環境問題(海のプラスチック・食品ロス・地球温暖化・森林破壊・児童労働)ごとに近くの席にまわって座り、提案や質問の受け答えを協力して行えるようにする。
- ・国語科の話し合い活動での学びを生かし、話し合いの手順を視覚的に示しておくことで、順序に沿って児童の力で話し合いを進めていけるようにする。
- ・関連するSDGsが子どもたちだけの力で出なかった場合は、教師の声掛けで、子どもたちの気づきを促せるようにする。(例: 児童労働と教育とのつながりに気付かせたい場合→「日中も働くということは、学校に行けているのかな? 社会の時間に見た水汲みをしていた女の子は、学校に行けていたかな?」等)
- ・SDGsの目標の内容の理解を促すために、SDGsのターゲットを児童が分かるような言葉に書き換えた「SDGsお助けシート」を活用する。

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

- ・校内の先生方に、授業実践を参観してもらい、授業に関するアドバイスを頂く。
- ・学習の様子や使用した教材を、廊下など多くの人の目の留まる場所に掲示する。
- ・作成した新聞を、授業参観において保護者へ発信する。また、廊下に掲示し、他学年の児童も見ることができるようになる。
- ・本単元で使用した教材を学校全体の共有フォルダに保管し、次年度の4年生も活用可能な状態にする。
- ・各月の国際デーと関連させた内容、それに関連するSDGs(今月のSDGs)の掲示を行う。

【自己評価】

12. 苦労した点	・SDGsを小学4年生の子どもたちが理解できるようにするための手立てが難しかった。今回はSDGsすごろくやユニセフの資料をもとに作成したSDGsお助けシートを活用して、学びを進めた。一つ一つの目標や、それに関する問題の言葉が難しいので、小学生にも分かりやすいSDGsの資料があると嬉しい。
13. 改善点	・座学での学習だけでなく、体験活動や、ゲストスピーカーの話を聞く活動等を取り入れることで、児童一人一人が環境問題を自分事として捉えることができ、更に学びが深まると思う。 ・地球サミットでの一つ一つの提案が、どのSDGsにつながるかだけでなく、なぜそのSDGsにつながるのかを、さらに深められるとよい。

14. 成果が出た点	・総合的な学習の時間を軸に、社会、国語、外国語活動等、様々な教科・領域との関連を図ったことで、時数の十分な確保と学びの充実を図ることができた。 ・年間指導計画に位置付けられている内容と SDGs との関連を図ったことで、他の先生を巻き込みながら、学年全体で実践することができた。また、共有フォルダへのデータ保存を行い、次年度の 4 年生でも活用できるようにした。 ・単元終末の地球サミットの活動を通して、自分たちでやることを、自分たちで考えることで、一人一人が自分事として考え、行動にうつしていく姿が見られた。
15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	【単元全体を通した子どもたちの振り返りより】 ・ごみが地球温暖化につながっているのは初めて知った。パーム油はなぜ植物油と書かれているのかを考えた。 ・人間が動物たちのすみかをうばうことを初めて知りました。私はこれから海の魚や森の動物たちのすみかをうばわないように生活していきたいです。魚や動物たちを守りたいです。 ・SDG s 17 の目標は全部の国が協力しないと達成できない。ゴミを減らせば色々な環境問題を解決できると思う。 ・私たちよりも小さな子ども達が学校へ行かずに働いているので文字が読めないことなど、たくさん知りました。なので、学校に行けるだけでも幸せなんだと感じました。 ・これまで考えてきた自分たちにできることをどんどんクリアしていった、地球を環境問題のない星にしていきたい。新聞を作る前にいっぱい調べたみんなの紙を見ると、森林破壊、児童労働、マイクロプラスチック、地球温暖化、食品ロスがどんどん進んでいることが分かり、それを止めなきゃという気持ちになりました。 ・気付いたことは、自分たちにこんなことができることがあったということ。ノーストローダーをやって、少しずつ解決していきたいです。自分の物に名前を書いて、友達が名前を書いていなかったら注意したいです。
16. 授業者による自由記述	今後国際理解教育・開発教育の授業づくりをしていく上で大切にしたいことが 3 つある。一つ目は「汎用性のある授業づくり」だ。既にある年間指導計画の内容に SDGs を位置付け、教材の共有化を図り、“どの先生にも取り組めるもの”という視点を大切にしたい。二つ目は「子どもたちが自分事として捉えられる授業づくり」だ。「環境問題を解決するためにプラスチックごみを減らそう」ということはだれでも正しいと思えることだが、大切なのは、子どもたちがどんな思いでその言葉を発したり、記述したりしたのかである。その言葉が子どもたちの「何とかしたい!」という強い思いから出たものであれば、それは自分事として捉えられているということだと思う。三つ目は、「教えるのではなく、共に考える姿勢を大切にすること」だ。どの教材を切り取るか、どのように伝えるかによって、子どもたちの捉え方は大きく変わる。正しいことを教えるようとするのではなく、様々な資料から、子どもたちと共に考えながら授業をつくっていくことが大切であると思う。

参考資料：

- ・国立教育政策研究所(2020)「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校総合的な学習の時間
- ・株式会社 P H P 研究所(2020)「ごみから考える S D G s 未来を変えるために、何ができる?」
- ・開発教育協会(2016)「フードマイレージどこからくる? 私たちの食べ物ー」
- ・SDGs CLUB 日本ユニセフ協会 <https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>

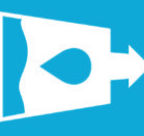
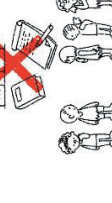
[illegible]

【校内の掲示物 “今月の SDGs コーナー”】



【様々な教科・領域との関連：関連する学習内容を⇒で結んでいます。】

教科 時期	社会	国語	総合	外国語活動 道徳
6 月	「命と暮らしを支える水」 水汲みにいく女の子の話から、水道から蛇口がでることは当たり前ではないこと、水汲みによって<u>教育を受けることができない子ども</u>がいることを知る。  			
7 月	「そのごみはどこへ行くの」 - 自分たちの身近なごみが、森林破壊や地球温暖化、水質汚染等につながっていることを知る。 <u>食品ロス</u>が大きな問題となっていることを知る。    	「みんなで新聞をつくろう」 - 調べたことをもとに、読み手に“自分事”と思ってもらえるような新聞をつくる。 - 友達、家族、全校児童へ発信する。	「われら環境調査隊」 - 自分たちが普段食べているポテトチップスやアイスクリーム等の原料にパーム油が使われていること、パーム油の原料となるヤシの木を育てるために、森林伐採や<u>児童労働</u>があることを知る。 - 自分たちの普段の食事は外国からの食材で成り立っており、<u>食材を現地へ運ぶまでに、多くの燃料を使っていること</u>を知る。    	「What do you want?」 買い物ゲームを通して、<u>フードマイレージ</u>を計算する。  
10 月				
11 月	「国際交流に取り組んでいるまち・小山市」 <u>地域に住む外国人</u>について知り、多文化共生のまちづくりについて考える。  	「ふるさとの食を伝えよう」 栃木県の自慢の食を、<u>地域に住む外国人の方に伝える。</u>（テレビ電話を活用した国際交流活動） 	「みんなの幸せプロジェクト」 <u>高齢者、障がい者、外国人</u>などに焦点をあてつつ、みんなが幸せに暮らせる社会について考える。（福祉）  	「世界がもし 4 年 2 組だったら」 <u>あってもよい</u>が <u>い(個性)</u>とあつては <u>いけない</u> <u>ちがい(差別)</u>について考える。    
12 月				

1 貧困をなくそう 	2 飢餓をゼロに 	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	6 安全な水とトイレを世界中に 
＼ たとえば、こんな問題が… /  世界では、5人に1人 (約800万人) の子どもたちが、「極度にあまのじゃく」暮らしをしています。 ※2019年12月1日現在、15歳未満の子どものうち、極度の貧困に陥っている子どもは約800万人です。	＼ たとえば、こんな問題が… /  世界を生徒40人の教室を考えると、その日食べるものがない、明日以降も食べ物をもらえるかわからない状況の人が1人います。	＼ たとえば、こんな問題が… /  サハラ以南のアフリカ地域では、2人に1人の子どもの、かぜで肺炎になっても治療を受けられません。 ※2019年12月1日現在、15歳未満の子どものうち、かぜで肺炎になっても治療を受けられない子どもは約2億人です。	＼ たとえば、こんな問題が… /  サハラ以南のアフリカ地域、西アジア地域、南アジア地域では、5人に1人が小学校に通えません。 ※2019年12月1日現在、15歳未満の子どものうち、小学校に通えない子どもは約1億人です。	＼ たとえば、こんな問題が… /  6歳から11歳の子どものうち、一生学校に通うことができない女の子は男の子の約2倍です。 ※2019年12月1日現在、15歳未満の子どものうち、一生学校に通えない女の子は約1億人です。	＼ たとえば、こんな問題が… /  水道の設備がない暮らしをしている人は22億人です。 トイレがなく、汲み取りや溝など、屋外で用を足す人は6億7300万人です。 ※2019年12月1日現在、15歳未満の子どものうち、水道の設備がない暮らしをしている人は約22億人です。
・生きていくために必要な食べ物を食べられないくらい、いのちの危険な面が「まずい」 ・とされる男性、女性、子ども、若者の割合を半分に減らす。 ・「まずい」人や弱い立場にいる人たちが十分に守られるようにする。 ・全ての人が平等に、生活にかかせないサービスを使えるようにする。	・だれもが一年中安全で、おいしい食べ物がある食料を十分に手に入れられるようにする。 ・「まずい」人や弱い立場にいる人たちが十分に守られるようにする。	・にんしんや、出産の時に命を落とすお母さんや赤ちゃんの人数を減らす。 ・生まれて 28 日以内に命を失う赤ちゃんや、5 さいまでに命を失う子どもの数を減らす。 ・エイズ、けいせいの病、マラリアなどの伝染病、肺炎や、よごれた水が原因で起こる病気をなくす。 ・有害な化学物質、大気・水・土壌の汚染が原因の死亡や病気を減らす。	・すべての子どもが、公平で質の高い教育を無料で受け、小学校と中学校を卒業できるようにする。 ・教育のなかでの男女差別をなくす。障がいがある子ども、先住民族の子ども、きこえの悪い子ども、貧困の子どもの教育を受けられるようにする。 ・すべての若者や大人が、男女ともに、読み書きや計算ができるようにする。	・すべての女性と女の子に対する差別をなくす。 ・子どものけいせいの、早すぎる結婚などをなくす。 ・社会の中で何かを決めるときに、女性も男性と同じように参加したり、リーダーになれたりできるようにする。 ・男女の平等をすすめる、すべての女性や女の子が能力を高められるようにする。	・だれもが安全な水を、安い値段で利用できるようにする。 ・だれもがトイレを利用できるようにして、屋外で用を足す人がいなくなるようにする。 ・水をよごしたり、ごみが捨てられたり、有害な物質が流れたりしないようにする。 ・水不足で苦しむ人の数を減らす。

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	たえば、こんな問題が… / 	たえば、こんな問題が… /  世界で電力を使えない人は 8億4000万人 です。 出典：World Energy Outlook 2019 (IEA) 図表 2.10	たれもが安い値段で、安定したエネルギーを使えるようにする。 ・再生可能エネルギー(太陽光、風力、地熱など、使ってもへらず、二酸化炭素を出さないエネルギー)を出す。
8 働きがいも 経済成長も	たえば、こんな問題が… / 	たえば、こんな問題が… /  世界のもっと楽しい国々には、5歳から17歳までの子どもの 0人 に人が、労働を強いられています。 出典：UNICEF Global Trends Report 2019 図表 2.10	人びとが経済的に豊かになっいていけるようにする。 ・みんながやる気が出て、働くことが楽しい仕事をふやしたり、小さな会社の成長を助けたりする。仕事の量にあった、平等なお給料がはらわれるようにする。 ・環境をこわさないうちに、商品をつくる。 ・児童労働をなくす。 ・全ての人が安全に安心して仕事ができるようになる。
9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	たえば、こんな問題が… / 	たえば、こんな問題が… /  世界では、約 36億 人の人びとがインターネットにアクセスできません。特に開発が遅れている国々には、 81% の人がインターネットを使えません。 出典：ITU International Telecommunication Union 図表 2.10	全ての人が生活しやすいように、質が高く、信実いでき、災害などにも強いインフラ(道、ダム、発電所、病院学校、公園など、安心・安全にくらししていくためになくてはならない施設)をつくる。 ・資源をむだなく使えるようにし、環境にやさしい技術や生産の方法を多く取り入れる。
10 人や国の不平等をなくそう	たえば、こんな問題が… / 	たえば、こんな問題が… /  多くの国でかつてないほど格差が広がっています。2017年には、世界のもっとも 豊かな1% の人が世界全体の富の 約33% を持っていました。	所得(お給料)の低い人たちの所得をあげる。 ・年れい、性別、障がい、人種などにかかわらず、全ての人が能力を高めることができ、社会から取り残されないようにする。 ・差別をなくし、みんなが平等に挑戦できるチャンスをもてるようにする。
11 住み続けられるまちづくりを	たえば、こんな問題が… / 	たえば、こんな問題が… /  過去40年にわたって、人びとが避難や移住しなければならないような 自然災害の発生件数 が大きくなっています。	十分に安全な家に、安く住むことができ、都市のまじしい人々が住む地域(スラム)の状況をよくする。 ・女性や子供、障がいのある人、お年寄りなど、弱い立場にある人が必要としていることをよく考え、全ての人が、安い値段で安全に公共交通機関(電車やバスなど)を使えるようにする。 ・水害などの災害によって命を失う人やひ害を受ける人の数をへらす。
12 つくる責任 つかう責任	たえば、こんな問題が… / 	たえば、こんな問題が… /  世界で生産されている食品の 約3分の1 (13億トン)が捨てられています。 出典：FAO The State of Food Security and Nutrition in the World 2019 図表 2.10	天然資源(森林や石油など)をむだにしないで使う。 ・捨てられる食料(一人当たりの量)を半分に減らす。生産者からお店への流れの中で、食料が捨てられないようにする。 ・化学物質や廃棄物(ごみ)を環境に害を与えないように管理する。 ・ごみをへらしたり、リサイクル・リユースをしたりする。

13 気候変動に 具体的な対策を	14 海の豊かさを 守ろう	15 陸の豊かさも 守ろう	16 平和と公正を すべての人に	17 パートナリシップで 目標を達成しよう	
世界中で気候変動が起こっています。 2019年、日本の熱帯夜の日数は、 30年前の約2.6倍でした。 出典：気象庁ホームページ「気象情報」(2019年) 気象庁発表(2019年7月27日現在)	私たちが使っているペットボトルやビニール袋などの プラスチックゴミが年間800万トン、海に流れ出しています。 出典：環境省「プラスチック資源循環戦略」(2020年) 環境省発表(2020年7月27日現在)	絶滅の危機にさらされていると推定される割合です。 出典：環境省「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(2020年) 環境省発表(2020年7月27日現在)	世界のとどこかで、5分に1人、子どもが 暴力によって亡くなっています。 出典：環境省「世界の平和に関する調査」(2020年) 環境省発表(2020年7月27日現在)	国際協力がますます必要とされている一方、 2018年に政府開発援助 (ODA) に使われたお金は、 前年に比べて、2.7% (対前年増減率) 減少しました。 出典：環境省「国際協力に関する調査」(2020年) 環境省発表(2020年7月27日現在)	
- 気候に関する災害がおきたときに、対応したり立ち直ったりできるような力をそなえる。 - 地球温暖化への対応を、それぞれの国で取り組む。 - 地球温暖化のスピードをゆるめたり、温暖化の影響にそなえたり、温暖化に関する教育をしたりする。	- 海洋ゴミなど、人間の活動によるものをなくし、海がよごれないようにする。 - 海や海の生き物を守るための取り組みを行い、海をきれいにしたり、生き物が住みやすいようにしたりする。 - 必要以上に魚を取りすぎないようにする。	- 森林の減少をとめる。世界全体で植林をふやす。 - 砂ばく化、干ばつ、洪水のえいきょうを受けておとろえてしまった土地を回復させる。これ以上おとろえさせないようにする。 - 多様な生物が生きられる産地の生態系を守る。 - 絶めつが心配されている生物を保護する。 - 違法な動物の狩りを禁止 - 外来種によって、生態系がくずれないようにする。	- あらゆる場所で、あらゆる形のばう力と、ばう力による死をへらす。 - 子どものぎゃくたいや、安いお金で子どもの幸せをうばうことをなくす。 - 全ての人が平等にあらそいを解決するためのさいばん所を使えるようにする。 - はんざいをなくす。 - 全ての人が身分証明(地域や国の人としてとめるもの)をもてるようにする。	- 開発途上国のためのお金をもつと集める。 - 開発途上国からの輸出をふやす。 - それぞれの国が、SDGsを達成するために協力して行動する。 - SDGs がどれだけ達成できたかを測れるようにする。	参考資料 SDGs CLUB 日本 ユニセフ協会 https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/

チーム

【提案】

【提案する理由】

理由	資料

海の生き物を守ろうチーム

提案：

食チーム

提案：

パーム油チーム

提案：

身近なプラスチックチーム

提案：

パーム油RSPOチーム

提案：

児童労働チーム

提案：

地球温暖化チーム

提案：

みどり大切チーム

提案：

われら環境調査隊

月 日

年 組 番 ()

学習のふりかえりをしよう。

これまでの学習（ごみの学習，調べ学習，新聞づくり，地球サミットなど）を通して，気付いたことや考えたこと，これからの生活に生かしていきたいことなど